

2013 年 3 月～6 月に行った小冊子配布実験について、

[「読めないけど読みたい日本語の将棋冊子 … 欧州で誰に何がウケるのか？」](#)

と題し、今年 2013 年 7 月貴会 HP へのレポート投稿という形でご報告いたしました。

その後、貴会から欧州将棋ファンへ多数の小冊子をいただきました。感謝申し上げます。それらの 2013 年下半期における配布実施状況を、後編としてここにご報告し、御礼にかえさせていただきます。

前回は「実験データに基づく考察」を中心とした「実験報告」の形式をとりました。今回の配布は実験ではありませんので、報告の形式を変え、データにはさほど重きを置かず、ただ皆様にその様子を思い浮かべていただくことを目的として、配布時の状況を綴っていきます。

【1】調達・配布の背景・環境

欧州における「小冊子配布活動」のそもそもの経緯・意図は、[前回レポート](#) 2 頁目、「【2】経緯」の項に述べましたのでここでは省略します。

今年 2013 年 7・8 月、貴会から計 200 冊の将棋世界・近代将棋等雑誌の付録小冊子(以下『付録』)をいただきました。また、これとは別に、ドイツ将棋協会では今夏 2 種類の詰将棋問題集小冊子(以下『詰問題集』)計 400 冊ほどを用意しました。

これらの配布実施環境は次の通り。

A) [ヨーロッパ／ワールドオープン選手権](#) (以下『ESC』)、2013/07/18-21。

於ミンスク、ベラルーシ。

参加選手は 10 カ国から 92 名。その他サポーター・ビジター・付き添いの親御さん等来場者多数。

B) [ドイツ国際将棋フェスティバル with 青野照一九段](#)、2013/10/12-13。

於ルートヴィヒスハーフェン。参加選手は 6 カ国から 53 名。

C) ドイツ・ユース選手権、11/23 開催予定。

於シュトゥットガルト。ドイツ在住の高校生以下が対象。

D) クラブトーナメント、“将棋の日”、シュピレフ氏追悼トーナメント、

日本総領事杯等、各種イベントを想定し主催者へ送付。

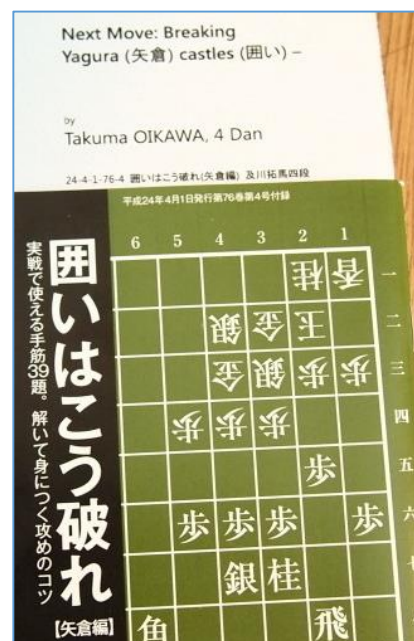
11 月以降来年春にかけて開催予定。

於サンクトペテルブルク、ロシア。

【2】狙いと事前準備

前回レポート 2 頁目の「【3】狙いと事前準備」の内容にほぼ準じますので、ここでは省略します。「事前準備」とは主に、冊子ごとに 1-2 行の英語のキャッチフレーズを添えることを指します(右画像)。

ただし、A) ESC ではその準備時間がなかったため、やむを得ず約 2/3 の量を英語なしで配布しました。



【3】配布の状況

A) ミンスク ESC 会場にて

『付録』約 100 冊を貴会会員の方々に遠路日本から運んでいただきました。当方で事前にタイトルを知る手段がなかったため、今年前半に行ったような英語キャッチフレーズ付帯(1頁目写真)の事前準備作業については、当日非常に限られた時間の中で 20 冊余にのみ、手書きで行いました。ドイツからの在庫約 10 冊を加え、結果的に英語付き 30 冊余、英語無し約 80 冊、合計 110 冊余を 3 日間にわたり配布しました。その際、冊子背表紙に自作の簡易シール(右上画像)を貼り、イベントロゴやアイコンから、ロシア語のみを解する人でもプレゼントの対象者・出所が多少は分かるようにしました。



□基本的には、会場隅の卓上に積み置き「無料プレゼント」とロシア語・英語で明示し、対局の合間に自由に閲覧・選択してもらいました。子供に対しては、キリがなくなるという状況を防ぐため「原則 1 人 1 種 1 冊ずつ」と(身振り手振りで)言いましたが、大人に対しては持ち帰りの冊数も自由としました。

□特別枠①：明らかに人気の出そうなタイトルの付録 10 冊余を優先して取り分けておき、「賞品用にごく少量を希望する」と予め意思表示のあった大会主催者へ進呈しました。

□特別枠②：スウェーデンからの参加者 2 名に声をかけ、「地元クラブのために好きなだけ持ち帰ってほしい」と案内しました。今年5月ストックホルムで案内・配布をやむなく断念した経緯を説明し「ですから今日遠慮は無用です」と言うと、喜んで 30 冊余を選んでいました。2 人は日本語を解する他、国には地元のクラブに加え日本人会将棋クラブもあることから、日本語棋書の需要があるようでした。

予想通り、英語付きの冊子から先に“売れて”いきました。相手が英/独語を解する場合は口頭で冊子内容を紹介することもありましたが、“売れ筋”はやはり前回レポート 1 頁目の「■今回の結論：ハ」項の通りでした。勿論、「日本からの将棋グッズなら何でもよいから欲しい」という人もあったでしょう。

実は北尾まどか女流初段の物販コーナーにも『付録』が山積みされていました。(日本からの大会参加者から受けた寄付品を商品購入者に無料進呈しておられた旨、後から伺いました。) そこで当方は、会場の目立たない一角に冊子を置くにとどめ、特に PR 活動は行いませんでした。そうした消極的配布方法でも徐々に関心と呼び、最終日までには全量が望まれて欧州各地へもらわれていきました。

上記『付録』の他に、ドイツ将棋協会では今夏『詰将棋集』2 種を購入・製作しました。

(a)一つは、貴会会員三宅様発行の「解けて嬉しい詰将棋」6・7 月号。初級者～中・上級位者用。ESC 用に 50 冊を購入。英語の概要紹介文・各問難易度・解答等、最低限の説明を予め当方で A4 用紙 1 頁に作成し利用者の便宜を図りました。尾関様には購入代行はじめあらゆるご協力をいただきました。

(b)もう一つは、ネット上の詰将棋サイトから紙媒体への転載許可を得て、独自に編集製作した“Easy Tsume Drill Shogitown” 第 1 巻。入門～初級者用。ドイツから 100 冊を持参。ページ構成・表記法は日本で一般的な仕様を敢えてそのまま採用し、全出題ヒント・解説文を日英 2ヶ国語としました。

これら 2 種の『詰将棋集』も、特別枠としてまず大会主催者に希望数を進呈し、残りを指導対局コーナーの端に「無料プレゼント」の表示とともに置いたところ、全量が希望者の手にわたっていきました。

尚、貴会会員に携行いただいた日本将棋連盟からの寄付品棋士カレンダー・英語棋書を各2点、高田尚平六段が日本から持参くださった色紙多数を、合わせて主催者に手渡したことをここに付け加えます。

B) ドイツ国際将棋フェスティバル with 青野照一九段 イベント会場にて

8月一時帰国の折、東京で再び『付録』100冊を受け取りこちらへ持って来てはいたのですが、事前準備のための時間が確保できず、やむなく配布を断念しました。ただし例外として、日本人や日本語読解力の高い人に何冊か個別に進呈しました。というのも、中には「妙手ポカ手」「失敗から学ぶ」等、内容がたとえ良くても、日本語が読めない読者が棋譜を追うという独習法にはふさわしくないものがあるためです。これらは一般配布分から除外して、例えば上記のような例外扱いにしています。

結局(b)2ヶ国語版『詰問題集』のみ100冊以上を希望者に配布。参加者・ビジター個人以外にも、他のクラブ主催者や普及活動家が何人か、少しまとまった数(10-25冊)を持ち帰ってくれました。

C) ドイツ・ユース選手権

子供対象の大会であり初心者～中級者が多いため、『付録』ではなく、『詰問題集』(a)(b)を数十冊用意する予定です。

D) サンクトペテルブルク、ロシア

クラブ主宰氏に、ESC 会場で、そしてその後メールでも、小冊子等普及グッズの希望を打診してきました。結果、『付録』26冊、『詰問題集』(a)(b)2種で50冊、さらに、これも寄付品である英語棋書2冊と将棋・日本関連グッズをとりまぜ、8月・10月の2度に分けて郵送しました。『付録』の英語付帯については、印刷・カットできる状態のファイル(右画像)を作成、別途メールで送信し、彼ら自身で印刷・添付作業ができるよう下準備をしました。



【4】効果・貢献度

前回レポート中に「潤沢な準備ができれば、...より訴求力の高い統計／感触を得」られるのではないかと述べました。が、今期は準備作業が追いつかず、本日時点で、英語付帯の効果について前回実験時より深い感触が得られたとは言えません。視点を改めて、配布自体が普及にどれだけ貢献するか、また小冊子自体が教材としてどれほど有用か、これらが見えるまでは予想通りまだ時間が必要でしょう。一方、今回の配布には2つの利点があり、「祭りの楽しさと思い出」には貢献できたかもしれません。利点：①異なる棋力向けにそれぞれ3種の冊子で対応。②在庫十分のため、配布対象者の制限不要。自分で内容を読めないロシア語圏の小学生達が、3種の小冊子をポケットにも鞆にも入れず終日手元に置いては時に矯めつ眇めつする姿。それは、本来の用途通りではないにせよ、心温まる光景でした。

【5】謝辞

最後になりましたが、ISPSの皆様、特に、大量の『付録』を提供してくださった真田様、欧州へのお土産を多数携えてくださった新関様、そして、前回に引き続き、私からの依頼や相談を受けて調達から携行まで全てにご尽力いただいた尾関様に心より感謝いたします。

以上